

# 令和 8 年度 九州森林管理局の重点取組事項

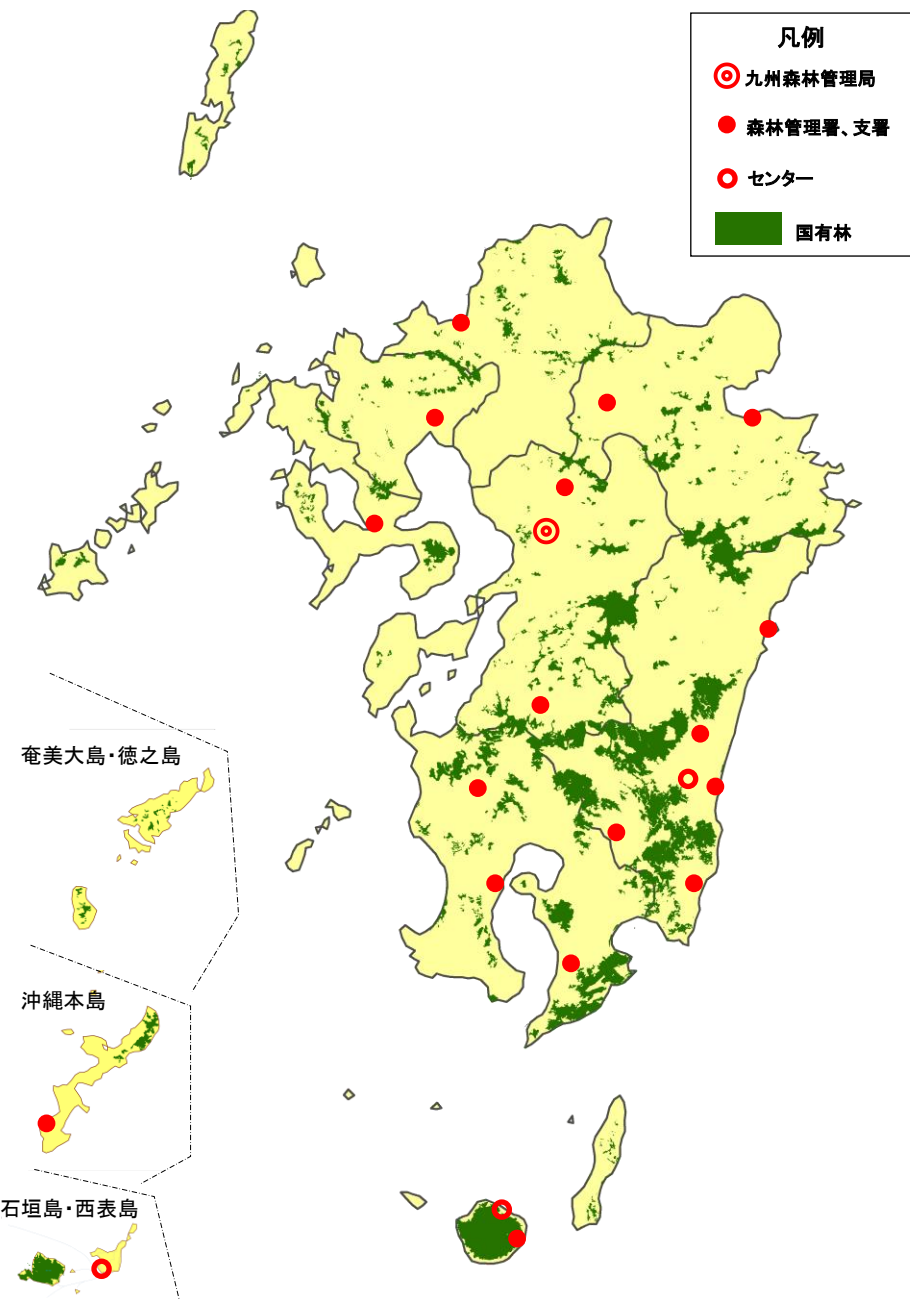


## 九州森林管理局

九州森林管理局  
ホームページ

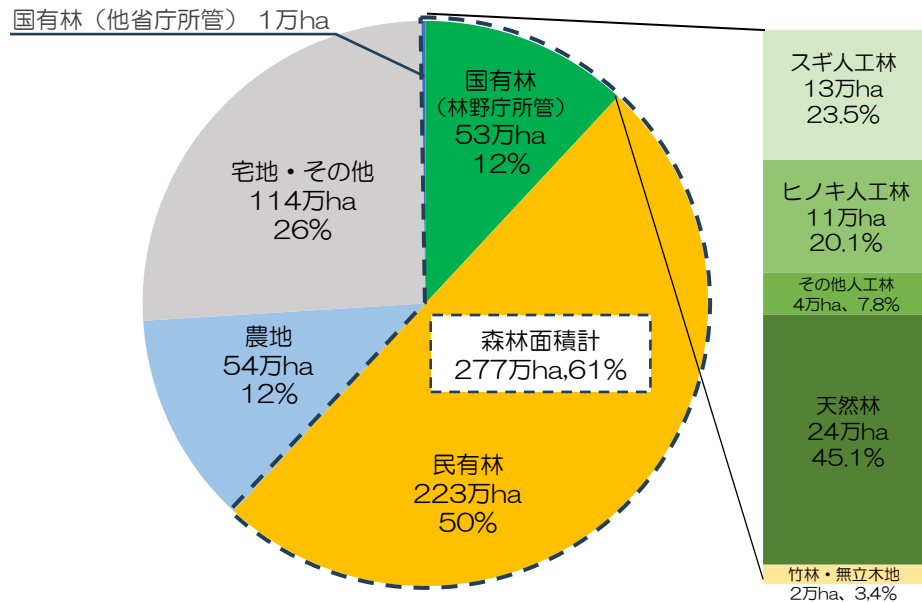


## 九州・沖縄における国有林の分布



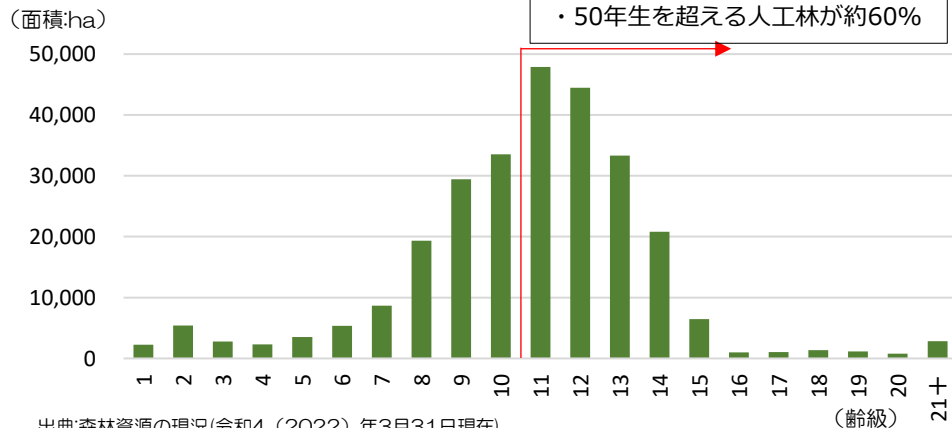
## 九州に占める国有林の割合

- 九州の国有林は森林面積の約2割を占める
- 国有林の人工林と天然林の割合はほぼ半々



出典：森林面積は「森林資源の現況」林野庁（令和4年（2022）年3月31日時点）  
 農地面積は「令和5年耕地及び作付面積統計」農林水産省  
 宅地・その他面積は「全国都道府県市町村別面積調」国土地理院（令和5年（2023）年10月1日時点）の各県面積の合計445万haから森林面積、農地面積を除いた面積

## 九州国有林の人工林の齢級構成



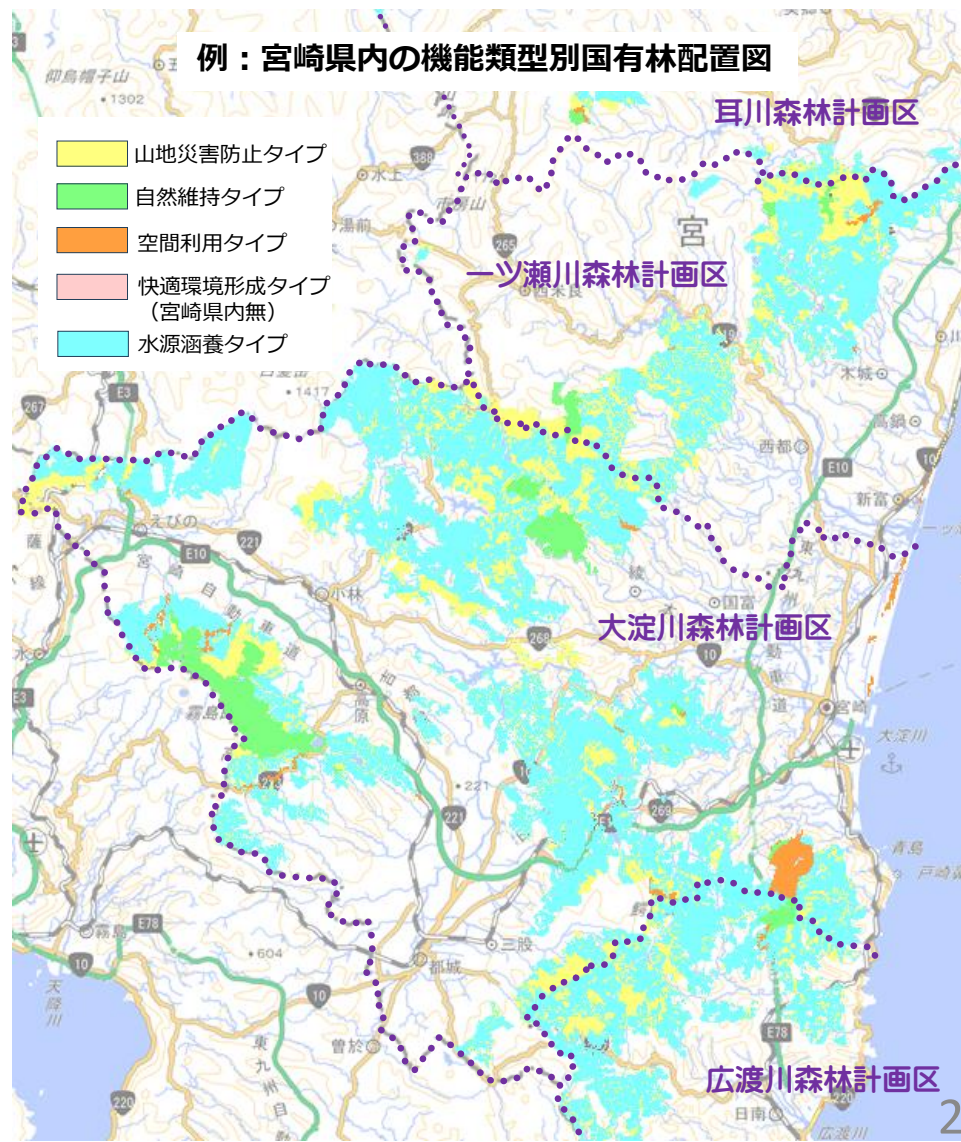
出典：森林資源の現況(令和4（2022）年3月31日現在)

(注) 齢級は5年を一括りとした表現で、1齢級は1～5年生、2齢級は6～10年生の林分を表します。

# 重視すべき機能に応じた管理経営

九州森林管理局では、重視すべき森林の機能に応じ、国有林野を①山地災害防止タイプ、②自然維持タイプ、③森林空間利用タイプ、④快適環境形成タイプ、⑤水源涵養タイプの5タイプに区分し、区分ごとの管理経営の考え方に即し、必要な施業を実施。

区分の名称 (タイプ)	森づくりの考え方
山地災害防止タイプ 113,424ha (21%)	根や表土の保全、下層植生が発達した森林の維持  由布岳の北側 (大分署)
自然維持タイプ 88,315ha (17%)	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の生育・生息に適した森林の維持  宮之浦岳 (屋久島署)
森林空間利用タイプ 14,827ha (3%)	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林の維持・造成  菊池渓谷の溪流 (熊本署)
快適環境形成タイプ 1,085ha (0.2%)	防音又は大気浄化に有効な森林の維持  八代市妙見地区 (熊本南部署)
水源涵養タイプ 310,116ha (59%)	人工林の間伐や伐期の長期化、育成複層林への誘導等を推進し、森林資源の有効活用にも配慮 



山地災害防止タイプの森林は次の2つに分けられる。

- ・土砂流出・崩壊防備エリア・・・土砂の流出・崩壊等の山地災害による人命・施設の被害の防備機能を発揮する森林。
- ・気象害防備エリア・・・風害、飛砂、潮害等の気象害による住居、産業活動に係る環境の悪化の防備機能を発揮する森林。

## 土砂流出・崩壊防備エリア

根系と下層植生の発達が良好で常に落葉層を保持した森林を維持し、必要に応じて治山施設等を整備。



宮崎県高原町（定木地区）



福岡県八女市（矢部地区）

## 気象害防備エリア

遮蔽能力と風害、飛砂、潮害等の気象害に対する抵抗性が高い樹種によって構成される森林を維持。



佐賀県唐津市（虹の松原）

## 【治山対策の推進】

地域の安全・安心の確保に向けて、治山ダム of 計画的な設置や保安林整備等の事前防災・減災対策を実施。



治山ダムの設置による河川区域への砂・流木の流出を抑制



流木捕捉式治山ダムの設置



保安林整備と筋工の設置による土壌の保全

# 自然維持タイプの森林の管理経営

- ・ 原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、希少な野生動植物の保護など自然環境の保全に係る機能を発揮させるため、良好な自然環境を保持する森林を維持。
- ・ 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産は令和8年7月で5周年を迎えることから、本遺産地域ならではの価値を再認識し次世代につなぐため、関係機関と連携して、地域内外へ広く発信するシンポジウム等の取組を実施。

### 保護林の種類

#### ○ 森林生態系保護地域（7箇所、53,887ha）

我が国の気候帯・森林帯を代表するような原生的な天然林を保護

（祖母山・傾山・大崩山周辺、綾、奄美群島、稲生岳周辺、屋久島、やんばる、西表島）



西表島森林生態系保護地域  
（遠景）



綾森林生態系保護地域  
（照葉大吊橋と保護地域の林相）

#### ○ 生物群集保護地域（11箇所、17,262ha）

地域固有の生物群集を有する森林を保護（代表例：高隈山、霧島山等）



ブナの林相（高隈山）



ミヤマキリシマの群落（霧島山）

#### ○ 希少個体群保護林

希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護



ツシヤマメコ



三ツ岩オビスギ遺伝子資源

### 世界自然遺産の保護・管理

#### 屋久島世界自然遺産（平成5年登録）



縄文杉（鹿児島県屋久島町）

#### ○屋久島湿原保全対策

花之江河では数十年で湿原の遷移が顕著化。侵食が進みつつある箇所では堰の設置による侵食防止対策等を関係行政機関等と連携して実施。



花之江河の湿原

#### 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産

（令和3年登録）



特別天然記念物アマミノクロウサギ  
（鹿児島県奄美大島及び徳之島）



天然記念物ヤンバルクイナ  
（沖縄県沖縄島北部）



亜熱帯植物のマングローブ林  
（沖縄県八重山諸島西表島）

#### 【モニタリング調査】

世界自然遺産地域の森林生態系を適切に把握し、科学的なデータに基づいた順応的管理を行うための植生モニタリング調査等を実施。学識経験者等の意見を聴きながら効果的な遺産地域の保護・保全に活用。



植生モニタリング調査

# 森林空間利用タイプの森林の管理経営

・レクリエーション、教育、文化機能を発揮する森林として、その利用の形態に応じた多様な森林を維持。



皿倉山からの眺望（福岡県）



桜の名所「お萩園」と金峰山（熊本県）



千尋の滝（鹿児島県）



マリユドウの滝（沖縄県）



雲仙岳の紅葉（長崎県）



特別名勝「虹の松原」（佐賀県）



五ヶ瀬ハイランドスキー場（宮崎県）



久重夢大吊橋（大分県）

## 快適環境形成タイプの管理経営

・快適な居住・環境を形成する機能を発揮する森林として、防音又は大気浄化に有効な森林を維持。



福岡市高祖城国有林



八代市上宮国有林

## 水源涵養タイプの森林の管理経営

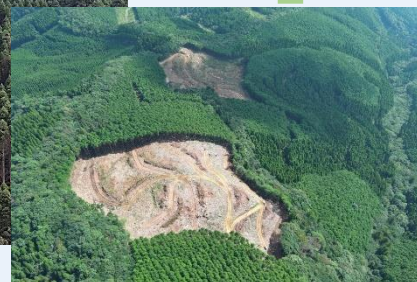
・水源涵養機能を発揮する森林として、人工林の間伐や伐期の長期化、育成複層林への誘導等を推進するとともに、森林資源の有効活用にも配慮。



一ツ瀬ダムに流れる水を蓄えている森林（西都児湯署）



列状間伐を実施した人工林



伐期を迎えた人工林の一部では育成複層伐も実施（伐った後は植栽を実施）



伐採した立木は有効活用



- ・2050年ネット・ゼロ※の実現に貢献するためには、間伐の着実な実施に加えて、「伐って、使って、植えて、育てる」という資源の循環利用を進めることが有効。(※温室効果ガスの排出量と吸収量を差し引き、ゼロにすること)
- ・花粉症対策初期集中パッケージ※を踏まえ、各県が指定した重点区域に準じた国有林において、スギ人工林の伐採や植替えを優先的に実施。(※令和5年10月11日花粉症に関する関係閣僚会議決定)
- ・主伐・主伐後の再造林については、持続的な木材供給や森林吸収量の確保に向けてエリートツリー等を活用しながら次世代の資源造成を推進するとともに、花粉の少ない苗木の積極的な活用による花粉発生源対策の加速化や、様々な企業等の参加を得て多様な森林の整備を実施。

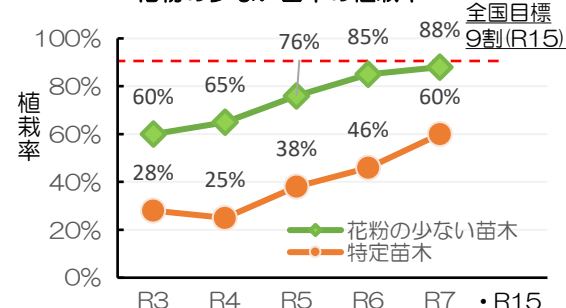


### スギ人工林伐採の加速化

スギ人工林伐採面積(全国)  
5万ha/年→7万ha/年(R15)

九州森林管理局においても  
スギ人工林の伐採面積の増加に  
取り組む

### 九州森林管理局における 花粉の少ない苗木の植栽率



### Topic:花粉発生源対策と次世代の資源造成の推進

九州森林管理局では、全国の国有林で初めて指定されたスギ特定母樹の指定採取源を活用し、令和6年度にスギ特定苗木の安定需給協定※を締結。協定に基づき採取された穂木が成長したため、本年度、納入される苗木の植栽を予定しています。



※ 苗木生産者に対し苗木増産に必要な穂木を提供販売し、当該穂木から生産されたスギ特定苗木を納入いただく協定



### 「昭和100年記念分収造林」のご案内

本年の「昭和100年」の機運を盛り上げるため、全国の国有林において「昭和100年記念分収造林」を実施します。  
なかでも、多様な樹種を育て、豊かな環境を育み、次世代へ引き継ぐ責任を分かち合うことをコンセプトにした分収造林を「**グリーン・シェアリング**」と名付け、様々な企業等の参加による分収造林の導入を進めます。



植樹祭の様子(都城支署)

- ・地域管理経営計画等に基づき公益的機能の発揮を重視した多様な森林づくりを推進する。
- ・「特に効率的な施業を推進する森林」においては、二酸化炭素の吸収量の確保や花粉発生源対策にも資する主伐及び主伐後の再造林に取り組む。その際、樹齢の異なる樹木で構成される複層林へ誘導する面的複層林施業について先導的に実施するとともに、林地保全や生物多様性保全に配慮した施業を行う。また、二次林や薪炭林等における天然力を生かした施業に取り組む。



### 広葉樹の利活用に向けた持続可能な施業

里山林等において、地域のニーズも踏まえ、広葉樹の利活用に向けた持続可能な施業を実施。

#### Topic: 鯉節製造に必要な薪の安定供給

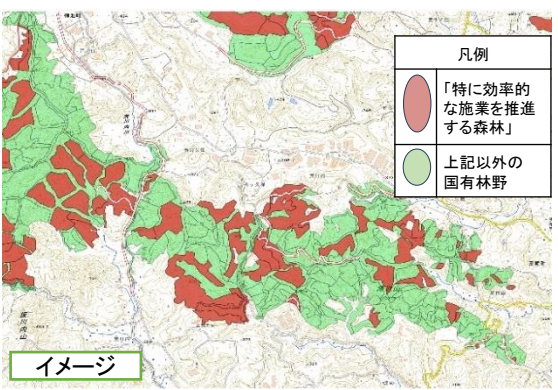
地元の要望に応じて、令和5年度に広葉樹約 2,300 m<sup>3</sup>の立木販売を実施。令和6年度から5年間で 16,489 m<sup>3</sup>の広葉樹を供給することとし、令和7年度は 3,564 m<sup>3</sup>の立木販売を実施した。当該地域はシカ被害がなく、伐採跡地では萌芽が一年未満で60 cmになり、旺盛な更新が確認された。



鹿児島森林管理署管内 (鹿児島県南九州市)

### 特に効率的な施業を推進する森林

自然的・社会的条件が良く持続的な林業生産活動に適した人工林を、「特に効率的な施業を推進する森林」に設定し、主伐及び主伐後の再造林を実施。



※自然的条件が良い森林：土壌が肥沃で木が育ちやすい、傾斜が緩い森林  
 ※社会的条件が良い森林：林道からの距離が近い森林

### 育成複層林への誘導

水源涵養等の公益的機能と木材等生産機能の発揮を同時に期待する森林では、自然条件などに応じ、帯状又は群状の伐採と植栽による確実な更新により効率的に育成複層林に誘導。



面的複層林施業実施箇所 (熊本県人吉市)

### Topic: 生物多様性保全に配慮した施業

スギ人工林の主伐にあたり、多様な樹種からなる森林への誘導を図るため、伐採予定区域に確認された広葉樹を可能な限り保残。また、溪流周辺の森林においては、林地保全や溪流の生物の生息環境の維持に配慮するため、一定幅の保護樹帯を設定。施業に当たっても生分解性オイルの利用を促進。

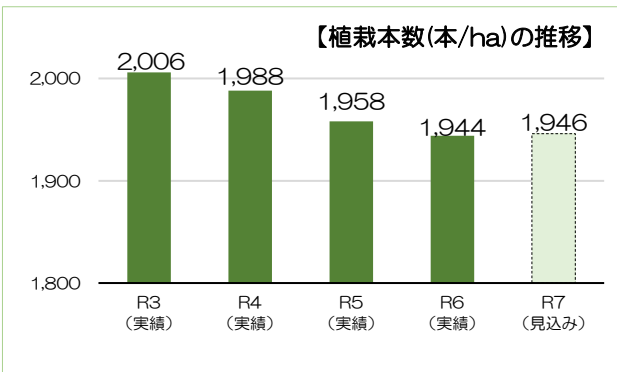


大分森林管理署管内 (大分県豊後大野市)

・国有林のもつ組織・技術力・資源を活用して民有林に係る施策を支え、森林・林業施策全体の推進に貢献するため、造林の省力化・労働負荷軽減等に係る取組（低密度植栽・長方形植・筋刈り）を推進するとともに、現地検討会を開催し、民有林関係者への普及・定着に取り組む。

## 低密度植栽と長方形植の実施

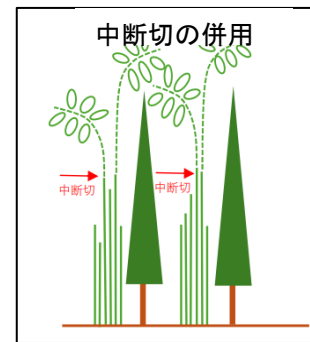
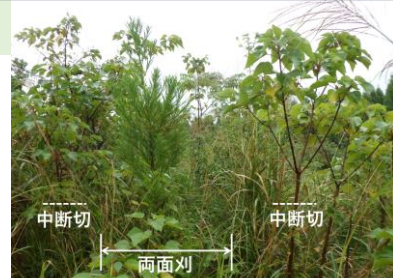
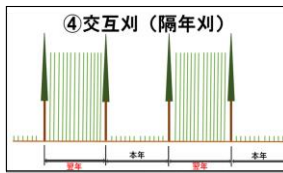
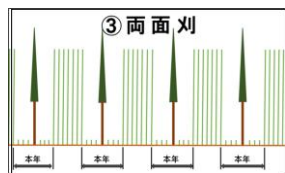
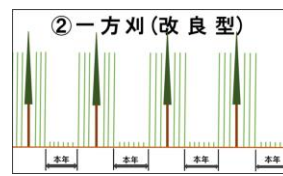
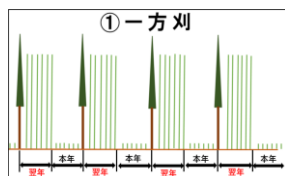
- ・従来（3,000本/ha）より少ない植栽本数で、軽劣化・省力化・コスト低減を図る。
- ・あわせて、植栽方法も従来の正方形植から長方形植にすることで植付け、保育作業のための歩行距離を縮減することができる。



## 下刈りの低減と全刈りから一部刈らない筋刈りへの移行

下刈りにおいて、一部を刈らない筋刈りを実施するとともに、残し幅の侵入木を中断切することにより、下刈りの省力化を図る。あわせて、下刈り回数の低減により低コスト化も推進。

	R4実績	R5実績	R6実績	R7見込み
筋刈りの割合	11%	16%	31%	39%
下刈り回数	4.3回	4.1回	4.0回	4.1回

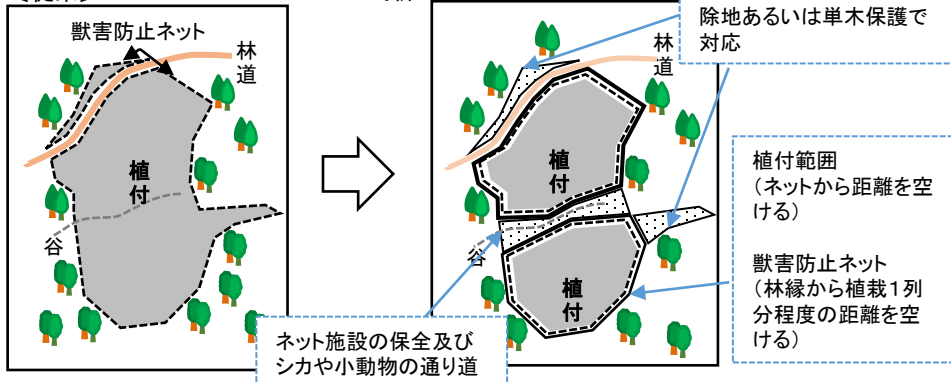


## シカ被害から造林地をまもる取組の強化

食害や角こすり等のシカ被害により、下刈りが長期化し省力化の妨げになっており、対策が急務となっている。こうした中、シカの侵入の要因ともなる植生防護柵の破損を防ぐため、柵張りの工夫等を実施。

〔従来〕

〔新たな取組〕



## Topic: 下刈り方法を工夫したシカ対策の実証

令和6年度に、7署9箇所においてシカネット内側の1mを刈り残す実証を実施したところ、多くの実証地で、シカによる食害が軽減される結果が得られた。これを踏まえ、ネット破損リスクの低減及び雑草木等によるシカからの目隠し効果等の観点から、林縁から植栽1列分程度の距離を空けて設置。



- 改正森林経営管理法に基づき集約化に取り組む市町村等民有林関係者を支援するため、民国連携した施業を行うとともに、市町村職員の研修への参加受け入れや現地検討会等を通じて、相互の技術力向上を図る。
- 大学等の研究機関との協定に基づき、林業の現場を実体験する機会を提供し、人材育成に貢献。

## 人材育成・技術支援の取組

### 森林整備の推進に向けた現地検討会・学習会

一ツ瀬川流域のフォレスター等の活動促進や市町村森林整備計画等の円滑な策定、民国連携した森林整備の一層の促進に向け、県や7市町村の林務担当者、森林組合、森林施業プランナーを有する事業体と現地検討会や学習会を実施。



(宮崎県西都市)

### 森林・林業に関する研修への参加受け入れ

下の3つの研修に市町村職員の参加を受け入れ



#### 森林の見方研修 (基礎研修A)

研修内容: 森林の見方、森林施業と植生、森林のGIS等の活用 等

#### 森林の育成研修 (基礎研修B)

研修内容: 造林の体系、森林被害の種類と対応、治山事業の概要 等

#### 無人航空機活用研修

研修内容: 森林・林業分野におけるドローン活用方法、操縦実習 等

### 「屋久島地杉苗採穂台木の仕立て方」現地検討会を開催

屋久島地杉苗の生産を安定的かつ効率的に進める上で重要となる、優良な採穂台木の仕立て技術の向上を図ることを目的とし、九州育種場から講師を招き、屋久島地杉苗生産協議会、鹿児島県、屋久島町、環境省屋久島事務所、屋久島森林管理署等が参集し開催。



・現地検討会の開催情報は九州森林管理局のホームページで随時更新。  
(右の二次元バーコードで確認できます。)



## Topic: ヒノキ展示フィールドの造成

全国有数のヒノキ生産地である熊本県では、シカ被害や木材価格の低迷により、ヒノキ資源の確保が課題になっていることから、熊本県に対しヒノキの展示フィールドの設定を提案。令和8年3月、初期成長に優れる等の特徴がある特定苗木や熊本県が研究開発中の苗木を植栽し、展示フィールドとして整備。今後、これらの苗木の成長や特性を比較調査しながら、林業関係者への普及啓発を行い、将来のヒノキ資源の確保につなげる。



(熊本県熊本市)

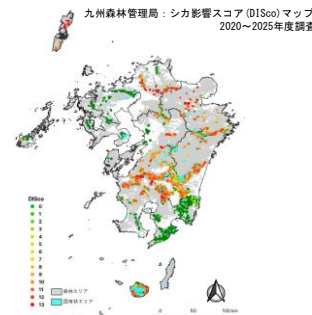
## 教育関係機関等との連携(「5大学連携協定」に基づく対応)

九州・沖縄の林学系コースを有する5つの大学と締結した連携協定を活用し、学生が参加する実習やインターンシップを積極的に受け入れ。現地ならではの体験を通じた学びの場を提供し、人材育成に貢献。屋久島森林管理署管内(鹿児島県屋久島町)



### 森林総合研究所九州支所との連携

シカによる植生への影響を把握するため、森林総合研究所九州支所と連携し、チェックシートを用いた簡易な痕跡調査を実施。調査結果を基に九州支所においてシカ影響スコアマップを作成。



- シカ等野生鳥獣による森林被害については、あらたに捕獲個体の埋設処理の効率化に向けた大型排水管用いた残渣減容化施設の導入に取り組む。
- 松くい虫被害対策については、薬剤散布等の適切な実施と伐倒駆除等を行い被害の蔓延防止に努めるとともに、被害地の復旧に向け民有林と連携した特定総合治山対策事業を実施。

## 鳥獣被害対策

- シカ等被害拡大に対応するため、地元市町村・猟友会等との協定締結等による捕獲、小林式誘引捕獲法の普及、植生保護柵の設置等の取組を実施。



小林式捕獲罠設置の研修



保護林への植生保護柵の設置

- 捕獲労力の低減に向けたICTを利用した長距離無線捕獲通知システムの導入

長距離無線捕獲通知システムの機能



## Topic: 捕獲個体の埋設処理の効率化に向けた残渣減容化施設導入



大型排水管用いた残渣減容化施設  
写真：近畿中国森林管理局より提供

## 病虫害対策の取組

宮崎県日向市の小倉ヶ浜海岸林においては、これまでも関係機関とマツクイムシ被害対策の方向性を検討していたが、近年のマツクイムシ被害の拡大により海岸林の再生が急務となっており、宮崎北部森林管理署と宮崎県が連携し、国有林・民有林を集中的かつ一体的に整備することで、潮害や風害による被害から市街地等の生活環境を保全し民生の安定を図る（特定流域総合治山事業）

被害状況

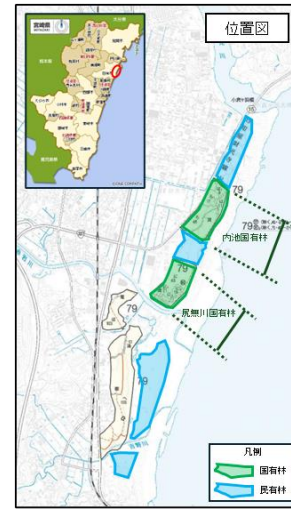


対策のイメージ



丸太防風柵と背後のマツ林

丸太防風柵と枯損木伐倒後の植栽工



- 急激に広がる松くい虫被害に適切に対応するため、被害木を現地で粉碎処理し、チップ化。バイオマス発電所に供給することで、低コストで被害木処理を行うとともに、地域の木材供給にも貢献。



鹿児島署 (吹上浜)

# 木材の持続的・安定的な供給

・九州森林管理局では、九州全体の国産材供給量の1割強を安定的に供給しており、適切な施業の結果得られる木材の持続的・安定的な供給を通じて、地域における国産材の安定供給体制の構築や国産材供給量の拡大に貢献するとともに、国有林材の供給調整を必要に応じ実施。

・素材（丸太）の販売に当たっては、国産材の需要の拡大、加工・流通の合理化等に取り組む製材工場等と協定を締結して丸太を直送する「システム販売」に引き続き取り組む。

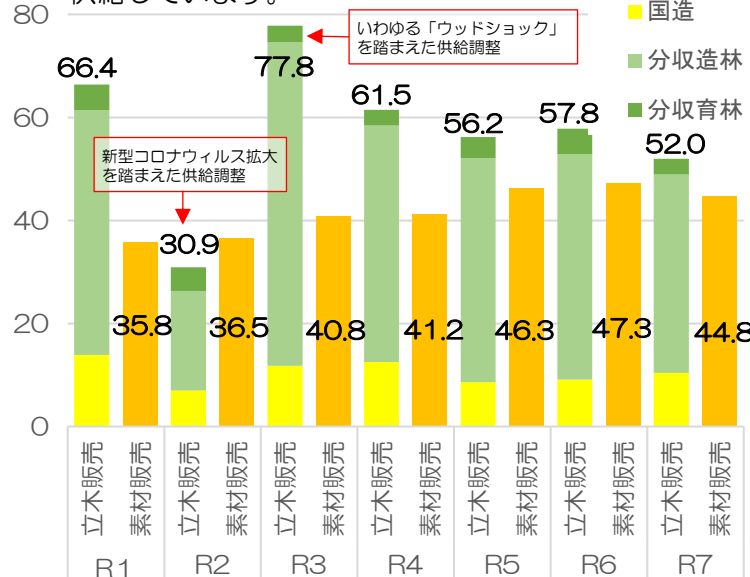
・また、民有林の立木の取引価格に形成に資するよう国有林の立木販売結果を公表。

## 国有林材の販売の流れ



## 森林資源の有効活用（国有林材の安定供給）

九州全体の1割強を占める木材を九州森林管理局から供給しています。



注) 分収造林と分収育林は民収分を含めた総数量

### ・ システム販売（R7実績）

販売量（R7）	
素材販売	44.8万m <sup>3</sup>
システム販売	43.5万m <sup>3</sup> （97%）

### ・ 立木販売結果の公表

民有林の立木の取引価格の形成に資する取組として、国有林の立木販売結果を公表。（右の2次元バーコードで確認できます。）



## 立木販売



# 災害への対応

・近年頻発する豪雨等において山腹崩壊等が多数発生しており、早期の復旧・復興に取り組むとともに、ICT施工を活用。

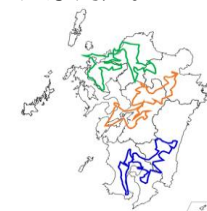
## 熊本地震から10年

平成28年4月に発生した熊本地震で被災した熊本県の治山施設を国の代行（特定民直）により復旧（阿蘇市と南阿蘇村の17か所で34基の渓間工と3か所の山腹工を実施）。被災から10年を迎えたが、事業概成から6年が経ち地盤が安定し草木の繁茂により回復傾向にある。



## 迅速な災害調査の取組

豪雨等による森林被害を把握するため、関係県と連携しヘリコプター調査を実施（R7.8豪雨）。



青：8/13ルート  
 橙：8/14ルート  
 緑：8/15ルート

## 新燃岳噴火の対応（緊急排土の実施）

令和7年6月に新燃岳が7年ぶりに噴火。その後の降雨で山麓部に堆積した火山灰等を含んだ土石流が発生。次の土石流発生に備え、緊急排土を実施。



## Topic:防災レジリエンス二輪協会との協定



山地災害発生時における自動二輪車を用いた調査体制を整備するため、九州森林管理局では全局に先駆けて防災レジリエンス二輪協会と協定を締結し、初動体制を構築。

- ①法面上部のアンカーと機体をワイヤーにより接続し斜面で作業。
- ②操縦席に設置されたモニターで掘削面の勾配等を確認。
- ③建設3Dプリンターで建設資材を作成している様子。
- ④実施予定の海岸防災林造成事業箇所（宮崎南部森林管理署管内）。

## 治山事業におけるICT活用工事の取組

斜面が急な現場で、工期短縮や作業員の省力化及び安全確保を図る観点から、高所掘削機械（RCM）を用いたICT施工を実施。3Dプリンターを活用した資材を使用し、工事の効率化や安全性の向上を図り、地形の改変が抑制された工事を実施。



# 令和8年度 主要事業量（計画）

項目	事業量等 (カッコ内は前年度計画)
森林の造成	
植付	12百ha (13百ha)
下刈	40百ha (40百ha)
除伐	5百ha (7百ha)
保育間伐	55百ha (56百ha)
林道新設等	31路線 (30路線)
木材の販売	
立木 (注1)	508千m <sup>3</sup> (508千m <sup>3</sup> ) <211千m <sup>3</sup> > (注2)
丸太	488千m <sup>3</sup> (488千m <sup>3</sup> )

(注1) 立木販売は分収造林の民収分、分収育林を除く。

(注2) <>書きは令和7年度実績（速報値）。

項目	事業量等 (カッコ内は前年度計画)
森林整備事業費 ※金額は当年度+前年度 補正の合計	143億円 (141億円)
治山事業費 ※金額は当年度+前年度 補正の合計	56億円 (52億円)
国有林野内	36億円 (34億円)
民有林直轄	20億円 (18億円)

～パンフレットで九州森林管理局の取組を紹介～



九州森林管理局  
ホームページ



九州森林管理局 企画調整課

熊本市西区京町本丁2-7

TEL : 096-328-3642

